

# 文化財だより 第122号

- 竜洋郷土資料館 リニューアル! . . . . . P1~2
- 平成の大修復 淡海国玉神社 パート3 . . . . . P3
- 国分寺まつり開催のお知らせ . . . . . P4
- コラム『方言VS若者言葉』 土井 みのり . . . . . P4

磐田市教育委員会教育部文化財課 平成27年5月1日発行

## 竜洋郷土資料館リニューアル!

竜洋郷土資料館では、市民の皆さまから寄贈していただいた民具を保存し、その一部を展示紹介しています。この度、大幅な展示替えを行い、皆さまに地域の生活の歴史を、よりわかりやすくご覧いただけるようにしました。

民具は、人々が日常生活の中で大切に使用してきた生活の道具です。先人たちが自然と共生しながら、生業や生活（衣食住）のために、工夫、改良しながら次世代へとつなげてきた道具は、生活の知恵と工夫を伝える貴重な文化財です。



竜洋郷土資料館

★開館時間  
9:00~16:30

★休館日  
月曜日・祝日  
・年末年始

★入館無料



1階では、農業・林業・漁業・養蚕などの道具を展示しています。先人たちの知恵と工夫や道具の発達歴史をご覧ください。

2階は、「生活用具」「飛行場」「掛塚湊」「郷土の祭り」「戦争」「天竜川」をテーマに、市が所蔵するさまざまな資料をご紹介します。

### 1階...農業・林業・漁業・養蚕などの道具を展示



【足踏み脱穀機】  
足でペダルを踏み、金具つきのドラムを回して、稲から籾(もみ)を取った。

【浜船】  
海で漁をするときに使った木製の船。



【ガラス製の浮】  
漁のとき浮かせて目印にした。元々は木製で、ガラス製、ついでプラスチック製にかわった。



1階の展示の様子



## 2階は郷土ならではのテーマで展示

### 人々の暮らし —食事・勉強そして娯楽—

民具の多くは、身の周りにある木や藁わらなど自然のものを  
使って作られていました。高度経済成長期以降、道具も急速に進歩し、プラスチックなどが登場し、カラフルな生活に変わってきました。

昭和のお茶の間の懐かしい民具をご紹介します



【壁掛電話機】  
明治29年～昭和40年頃まで使用された。ハンドルを回し電流を送り、電話局を呼び出した。

【電話番号簿】  
昭和24年12月1日現在のもの。

えっ！この1冊に静岡県内全ての電話番号が載っている！？



【長火鉢】  
手などをあたためる道具。引き出しは、よく乾燥していて海苔などの保存に便利だった。

【顕微鏡】  
19世紀イギリス製



### 飛行場と磐田 —福長飛行場・明野飛行学校ほか—

磐田に飛行場があった！？

【福長飛行場】大正時代中頃、掛塚(蟹町)に作られた福長飛行機研究所の付属の民間飛行場です。関東大震災で交通通信が絶たれた際には、掛塚・所沢間を数往復し、政府公文書を空輸するなどしています。

【明野飛行学校】全国各地から技術者と機材が集められ、明野陸軍飛行学校天竜分教所が設立されました。(昭和17年開校)



【主翼の部品】ルノー七十馬力 大正十一年六月十四日 午前七時」と書かれている。



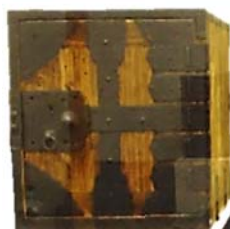
この部分



機関車が走っていた

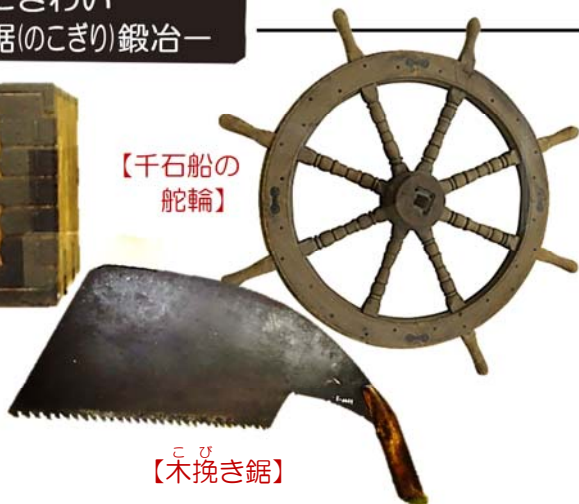
建設工事に携わった人々の写真

### 掛塚湊のにぎわい —廻船と鋸(のこぎり)鍛冶—



【船筆筥】  
千石船などの船乗りが船室で使用した筆筥。

【千石船の舵輪】



【木挽き鋸】

掛塚湊は、江戸～明治時代にかけて、天竜川流域の木材を江戸や大坂に運び出す廻船の港として繁栄しました。天竜川の中・上流で行われていた木材の加工が河口で行われるようになり、はじめは近江(滋賀県)から大鋸を仕入れていましたが、需要が増えたため、近江から職人を呼び、当地で製造を始めたのが掛塚鋸のおこりといわれています。

その他にも「磐田の心意気—郷土のまつり—」「よみがえる遠州の小江戸—掛塚湊の歴史・暮らし—」「人々の苦難・戦争」「天竜川と磐田—渡河と治河—」のテーマで展示しています。



# 平成の大修復 おうみくにたま 淡海国玉神社

パート3

市指定文化財の淡海国玉神社では、平成25年度から2年間にわたり、本殿ほんでんの全解体、修復工事が行われてきました。平成27年4月19日には竣工奉告祭が行われ、平成の大修復工事は終了しました。また、この日、午後7時から遷座祭せんざさいが執り行われ、御神体が仮殿から本殿に遷されました。淡海国玉神社の修復工事の様子については、文化財だより第106号と115号でご報告してきましたが、今回は、完成した本殿の様子をご紹介します。

## 美しい彫刻があちこちに

いちばん古い彫刻は獅子ししの飾り(文化財だより106号参照)で、切り取って後から付けられたもので、建立当時のものを大切に残してきたことも考えられます。その他にも、表裏両側から掘り込んだ彫刻など、美しい彫刻があります。



御神座にいちばん近い彫刻は鳳凰



鳳凰の向い側には龍の彫刻



1部屋につながった御神座

## 御神座の中は・・・(ここでしかご覧になれません)

擬宝珠ぎぼし(文化財だより106号参照)に記された明暦3年(1657)や、修理の棟札に文久3年(1863)の年号がありますが、建築当時の図面や記録は存在していません。今回の大修復では、解体しながら改修された箇所や傷んでいる箇所の調査を行い、当時の材料を可能なかぎり使いながら、当時の姿になるよう修復を進めました。

御神座とその両側にある相殿はそれぞれ部屋が分かれていましたが、今回の調査で、元は1部屋であったことが分かりました。そのため、今回の修復では、壁を取り本来の状態に戻しています。

## 建立当時の様子は・・・

部材には、現在では入手が困難な年輪が細かい上質な木材を使っています。また、格子の戸には黒漆が見つかったことから、建物の内部に漆を塗った豪華絢爛な建物だった可能性も考えられます。



## 遷座祭

日が落ちた闇の中、厳かに遷座祭が執り行われました。御神体が仮殿から出御する瞬間、明かりは消され、提灯の灯り1本のみになりました。この瞬間に出会えたことは、まさに感動の一言でした。

完成した本殿



# 「2015 国分寺まつり IN 遠江」を開催します

国分寺は、奈良時代、聖武天皇の命令により、国が仏教の力で安定するように願い建てられた寺院です。遠江国分寺跡は、全国で3箇所しかない国の特別史跡のひとつです。ぜひこの地を踏みしめ、当時の姿に思いをはせてみませんか。

今年もやります！  
国分寺跡展望ツアー

文化財課の職員のガイドで、市役所6階から国分寺跡を見学します。史跡の全景を一望できる、絶好の機会です！

ツアー出発予定時刻  
10:15～ 13:15～  
所要時間：約30分  
集合場所：  
文化財課ブース

とき：6月13日(土)  
9:00～16:30  
荒天の場合は翌日に延期

ところ：  
遠江国分寺史跡公園  
(市役所北側)



遠江国分寺跡出土の瓦などを説明  
(昨年の様子)

《その他のイベント》蹴鞠実演(京都・蹴鞠保存会)／十二段舞楽(国指定重要無形民俗文化財：森町・小国神社と天宮神社)／国司参拝風景の再現／地元幼稚園・保育園児による歌と楽器演奏／高校生によるブース出展 など

問合せ先 文化財課事業について： 0538-32-9699  
国分寺まつりについて： 090-9021-1327  
(実行委員会・今井)

## コラム

### 方言 VS 若者言葉

土井 みのり

小学生の頃、近所のおばあちゃんたちが話す方言の中で印象的なのが、「あらすかいいれ(あらかいいれ)=あるわけない」と「あらんじゃいれ=あるに決まってる」の反対なのにそっくりなふたつ。高校生になって福田から磐田へとほんのちょっとだけ社会が広がった時、磐田の友人は、このふたつの使い分けは難しいと言い・・・遠州弁とひとくちに言っても、地域で少しずつ違うんだということを知りました。今では、こてこて(?)の方言を聞くことは少なくなったけれど、意識して聞くと「くる=隅」「じゅるい=ぬかるんでいる」「しょんばい=しょっぱい」などなど、まだまだ今の時代にも使い続けられているものがたくさんあります。方言で話しかけられると、ぐっと情景が浮かぶし、親近感がわきます。

ところで、娘たちが使うやたら縮めた若者言葉、みなさんは意味が分かりますか？今では「斜めってる」に違和感を覚えません。「秒で=すぐに」は、まあ分かるかな。「り=了解」はさっぱり分かりません。若者言葉は彼らの大切なコミュニケーションツール・・・これは方言の危機？

いえいえ、方言も捨てたものではありません。「あんた、がんこに服汚いたね～」「身体えらくてしょんないだで、いいかげんにしてや～」・・・大丈夫！母の小言には方言満載！方言で怒られる方がじっくりくるかも。こうやって心も文化も、母から子へもしっかり受け継がれていくのかな。

ある？  
ない？



©磐田市

編集  
後記

今年も小学6年生を対象とした訪問歴史教室が始まりました。磐田には遺跡がいっぱい。市内から出土した土器などに触れ、教科書にはないふるさと磐田の歴史を知っていただけたら嬉しいです。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部文化財課  
(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699  
◆市ホームページからも WEB 版文化財だよりが閲覧できます